

女のみづうみ (1966)

メディア 映画
ジャンル サスペンス
製作国 日本
色彩 B&W
時間 98分
初公開日 1966/08/27
公開情報 松竹

【解説】

川端康成の小説『みづうみ』を石堂淑朗、大野靖子、吉田喜重が翻案・脚色し映画化。モノクロを巧みに活かした映像が印象的。水木有造と宮子は結婚8年目の夫婦だったが、仕事ばかりの有造に愛想を尽かした宮子は、北野という青年と情事を重ねていた。ホテルで北野に自分のヌード写真を撮らせた宮子は、その帰り、暴漢にネガフィルムを奪われてしまう。見知らぬ男から脅迫を受けるようになった宮子は、フィルムを取り返すため、男の言うまま列車に乗り込んだ。しかし列車は脱線事故で停止。列車を降りた彼女の目の前に、北野が現れた。

【クレジット】

監督 吉田喜重
製作 駒崎秋夫
原作 川端康成
脚本 石堂淑朗
撮影 鈴木達夫
美術 平田逸郎
音楽 池野成
出演 岡田茉莉子
芦田伸介
露口茂
早川保
夏圭子